



マグの相方 施工手順書

[2016.12 版]

ISHIYAMA

施工前に必ずお読みください。

「マグの相方」注意事項

施主様と内装工事業者様へ

⚠️「マグの相方」を貼った壁紙にマグネットを使用する際のご注意

「マグの相方」は鉄粉を含んだゴムシートが素材です。冷蔵庫等鉄製品と比較すると保持力は20～30%位とお考えください。**マグネットを選ばれる際は強力マグネット（ネオジウムマグネット）をご使用ください。**ホームセンターや文具専門店で販売されています。一般的なマグネット（フェライトマグネット）の場合コピー用紙A4チラシやメモ1枚位ですと1個～2個で充分ですが大きな用紙を貼る場合は複数のマグネットを使用してください。またパネルや額を壁に掲示をしたい場合はその裏面に粘着付きマグネットシート（当社やホームセンター等で販売されてます）を面積を大きく切り、貼って貰えば掲示することができます。但し高価な物や重量の有る物又は時計等精密機器の掲示はおやめください、滑り落ち破損したり機器を狂わす危険があります。

取扱上のご注意

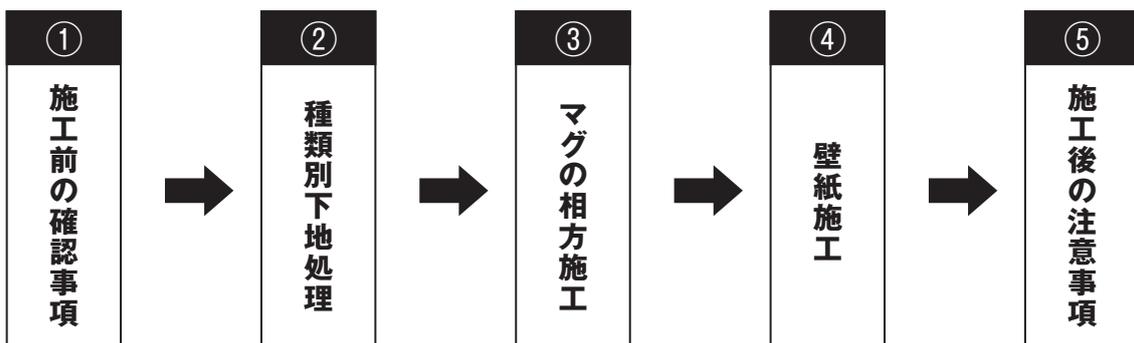
- 施工に使用する製品に関しては、各製品の使用方法、注意事項を必ず読み、十分にご理解の頂いた上でご使用ください。
- 施工前に施工説明をよく読み、正しく施工してください。
- 「マグの相方」は**屋内専用**です。
- 火の近くなど、高温・多湿の場所へのご使用は避けてください。
- ボード面にシールや濡れたものを貼らないでください。また、キズやヘコミをつけないでください。
- シンナーやベンジンのご使用は避けてください。
- このシートはハサミやカッターで簡単に切れる為お子様の使用には充分お気をつけてください。
- 電子機器、医療機器、精密機器、磁気製品、時計等に粘着させないで下さい。粘着させるだけでは影響はありませんが、磁石部品をくっつけてご使用の際に相手側の機能を失う可能性があります。
- 本製品はマグネットではありません。

壁紙についてのご注意

- 本製品は**黒色**です。壁紙が**薄くて白い物は避けてください**。マグの相方が黒く透ける場合があります。商品サンプルで試験施工して確認するか、**施主様や依頼主様には色うつりする可能性がある事を事前に確認**してください。
止むを得ず**色うつりする可能性がある壁紙**を使用する際には、「マグの相方」に「**パテ**」を薄く塗布するか、「**カラーシーラームヘン（白）**」（何度も重ね塗りし、凹凸が出ます）を塗布することで、**色うつりは緩和**されますが**マグの相方と壁紙の間に塗膜を作るのでマグネットの保持力は低下**します。事前に確認してください。
- 壁紙の種類によっては接着しにくい物もありますので**試験施工し確認された上で施工**してください。
- **凹凸の激しい壁紙や極端に厚みのある壁紙**はマグネットの保持力を低下させるので避けてください。
- 汚れ防止壁紙・表面強化壁紙などで多く見受けられる**フィルム・ラミネートタイプなどの通気の少ない壁紙は避けて**ください。
※糊の水分の逃げ場がないことにより、**目スキ・剥がれ・フクレが発生する可能性**があります。
- 壁紙ジョイント部は下地を切らないように**突き付け施工**ないし**PP下敷きテープ**を使用してください。目スキ防止の為**ジョイント補強テープ「和紙テープ」**等を挿入してください。

施工の流れごとの施工方法をよく読み、施工してください。

施工の流れ

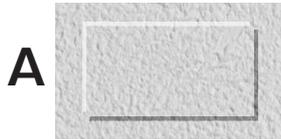


① 施工前の確認事項

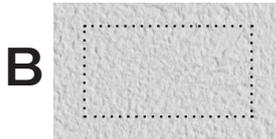
- 施工は5℃以上で行ってください。
- 本製品はロール状になっているので、あらかじめ巻きぐせを取ってください。
- 「マグの相方」は0.5mmの厚さがあるため、貼った後段差が出ます。仕上げ方法はあらかじめ施工様や依頼主様と事前に打ち合わせしてください。

施工方法による異なる仕上がり

- A : マグネットの接着面がわかるように、敢えてパテ処理をしない。
- B : 貼った場所がわからなくてもきれいに仕上げるため段差をパテで埋める。
- C : 段差を見切り材などで囲む



A



B



C

パテなし仕上げ

「マグの相方」を貼った段差にパテをせず仕上げます。マグネットの被着面がわかる仕上げです。

パテ仕上げ

「マグの相方」を貼った段差にパテでフラットに仕上げます。マグネットの被着面がわからなくなる仕上げです。

パテなし仕上げ

マグの相方を貼ったまわりをジョイナーでかこむ仕上げです。掲示ボードとしてマグネットの被着面がハッキリわかる仕上げです。
※推薦下地：石膏ボード・合板・MDF等。

- 施工する下地に対して下記の表から本製品が適している商品か必ず確認してください。
- 施工する下地に対して下記の表から接着剤が適している商品か必ず確認してください。
- 下地の種類によっては施工できない場合や、下地調整に思いのほか時間や経費が掛かる場合もあります。

	マグの相方 糊なし	マグの相方 糊付き	マグフレンズ ホワイトボード	マグフレンズ 黒板
石膏ボード	○	○	○	○
ケイカル板	○	×	○	○
ベニヤ	○	×	○	○
ラワン合板	○	×	○	○
コンパネ	○	×	○	○
コンクリ	○	×	○	○
モルタル	○	×	○	○
繊維壁	○	×	○	○
じゅらく	○	×	○	○
珪藻土	○	×	○	○
水性ペンキ塗装	×	○	×	×
油性ペンキ塗装	×	○	×	×
ジプトーン	×	○	×	×
焼付塗装鉄板	×	○	×	×
化粧合板	×	○	×	×

	下地用接着剤		下地調整材・補強材				壁紙用接着剤	
	プラゾールSS	ウォールボンドEV-30	シーアップ	シーラーセットアップ	390 クリーン	コンタクトセメントNO.1	ウォールボンド100	ルーアマイルド
	ヤヨイ化学工業(株)	ウォールボンド工業株	ヤヨイ化学工業(株)	ウォールボンド工業株	ウォールボンド工業株	ウォールボンド工業株	ウォールボンド工業株	ヤヨイ化学工業(株)
石膏ボード	○	○	○	○			○	○
ケイカル板	○	○	○	○			○	○
ベニヤ	○	○	○	○			○	○
ラワン合板	○	○	○	○			○	○
コンパネ		○	○	○			○	○
コンクリ		○	○	○			○	○
モルタル	○	○	○	○			○	○
繊維壁		○	○	○			○	○
じゅらく		○	○	○			○	○
珪藻土		○	○	○			○	○
水性ペンキ塗装			○		○		○	○
油性ペンキ塗装					○		○	○
ジプトーン					○		○	○
焼付塗装鉄板						○	○	○
化粧合板						○	○	○

※上記の適合表はあくまで「マグの相方」との適合を示すものであり、他の材料との適合を示すものではありません。

②-1 種類別下地処理

事前確認

- ①施工前に下地が確実に固定されているか確認してください。
- ②下地に油污れやサンダー処理後の粉などが残っている場合は取り除いてください。
- ③下記の該当する下地を確認して、それぞれの手順に沿って下地処理を行ってください。
※壁紙と下地が接着する面については使用される壁紙用接着剤に応じて、下地ごとの適宜な処理を行ってください。

石膏ボード下地(露出した下地)

- ①ボード継ぎ目や不陸部など、適宜必要に応じてパテ処理を行ってください。
- ②パテを塗布した部分が完全に乾燥後、下地全面にシーラーセットアップ(ウォールボンド工業)を3倍希釈し塗布してください。
またはシーアップ(ヤヨイ化学工業)を4倍希釈し塗布してください。
- ③完全乾燥させてください。
※マグの相方(のりなし)⇒「プラゾールSS」または「ウォールボンドEV-30」にて施工してください。
※マグの相方(のりつき)⇒そのまま施工してください。

貼り替え下地：クロスの裏紙が残っている場合

- ①既存の壁紙の裏紙の浮き具合を確認。水を霧吹きなどとしてみて、浮きが激しい場合はすべて剥がしてください。
- ②裏紙がほぼしっかり残っている場合は、適宜必要部分にパテ処理を行ってください。
※裏紙をほとんど取り除いた場合 ⇒ 露出した下地の手順に従って処理してください。
- ③パテを塗布した部分が完全に乾燥後、下地全面にシーラーセットアップを3倍希釈し塗布してください。
- ④完全乾燥させてください。
※マグの相方(のりなし)⇒「プラゾールSS」または「ウォールボンドEV-30」にて施工してください。
※マグの相方(のりつき)⇒そのまま施工してください。

ケイカル板・ベニヤ・ラワン合板下地

- ①下地全面にシーラーセットアップ(ウォールボンド工業)3倍希釈し塗布してください。
※ベニヤ・コンパネにおいて、シーラー塗布時に木目が大きく膨らむ部分があれば取り除いてください。
- ②下地に不陸がある場合は、乾燥後パテ処理を行ってください。
- ③パテを塗布した部分が完全に乾燥後、パテの上にシーラーセットアップを3倍希釈し塗布してください。
※吸い込みが激しい下地やアクが強そうな下地の場合は、パテ上だけでなく全面に塗布してください。
- ④完全乾燥させてください。
※マグの相方(のりなし)⇒「プラゾールSS」または「ウォールボンドEV-30」にて施工してください。
※マグの相方(のりつき)⇒不可(使用は避けてください)。

コンパネ・コンクリ・モルタル下地

- ①下地全面にシーラーセットアップ(ウォールボンド工業)3倍希釈し塗布してください。
※ベニヤ・コンパネにおいて、シーラー塗布時に木目が大きく膨らむ部分があれば取り除いてください。
- ②下地に不陸がある場合は、乾燥後パテ処理を行ってください。
- ③パテを塗布した部分が完全に乾燥後、パテの上にシーラーセットアップを3倍希釈し塗布してください。
※吸い込みが激しい下地やアクが強そうな下地の場合は、パテ上だけでなく全面に塗布してください。
- ④完全乾燥させてください。
※マグの相方(のりなし)⇒「ウォールボンドEV-30」にて施工してください。
※マグの相方(のりつき)⇒不可(使用は避けてください)。

②-2 種類別下地処理

繊維壁・じゅらく・珪藻土など塗り壁下地

- ①下地の状態の確認。軽く触って塗りが落ちる場合や、濡らしてはがれやすい場合はできるだけ取り除いてください。
※塗りを完全に落とした場合 ⇒ 露出した下地の手順に従って処理をしてください。
- ②塗りを取り除くまでの必要がない場合、下地全面にシーラーセットアップ（ウォールボンド工業）3倍希釈し塗布してください。
- ③下地に不陸がある場合は、乾燥後パテ処理を行ってください。
- ④パテを塗布した部分が完全に乾燥後、パテの上にシーラーセットアップ3倍希釈し塗布してください。
※吸い込みが激しい下地やアクが強そうな下地の場合はパテ上だけでなく全面に塗布してください。
- ⑤完全乾燥させてください。
※マグの相方（のりなし）⇒「ウォールボンドEV-30」にて施工してください。
※マグの相方（のりつき）⇒不可（使用は避けてください）。

ペンキ塗装された下地：水性ペンキ・油性ペンキ・ジプトーン等

- ①下地の状態の確認。表面の汚れはふき取ってください。塗膜に浮き、めくれ、割れなどがある場合はワイヤーブラシやサンダーで塗膜を取り除いてください。
- ②塗膜がしっかり残っている場合、390クリーン（ウォールボンド工業）を原液～2割希釈で全面に塗布してください。
※塗膜をほとんど取り除いた場合 ⇒ 露出した下地の手順に従って処理してください。
- ③下地に不陸がある場合は、乾燥後パテ処理を行ってください。
※このとき、390クリーンまたはパテボンドを多めに添加したパテを用いるか、そうでない場合は、パテを塗布した部分が完全に乾燥後、シーラーセットアップを3倍希釈し塗布してください。
- ④完全乾燥させてください。
※マグの相方（のりなし）⇒不可（使用は避けてください）。
※マグの相方（のりつき）⇒そのまま施工してください。

非吸水下地：焼付塗装鉄板（パーテーション含む）化粧合板（プリント合板）等

- ①下地の状態の確認。表面の汚れはふき取ってください。
※焼付塗装鉄板の表面にキズ・サビがある場合は先に防錆処理してください。
※化粧合板のおいてのみ、プリント化粧層をすべてサンダー処理などで削り取った場合ベニヤ下地と同様の処理で施工ができます。
- ②コンタクトセメントNo.1を原液のままローラーかスポンジで塗布してください。
- ③下地に不陸がある場合は、乾燥後パテ処理を行ってください。
※このとき、390クリーンまたはパテボンドを多めに添加したパテを用いるか、そうでない場合は、パテを塗布した部分が完全に乾燥後、シーラーセットアップを3倍希釈し塗布してください。
- ④完全乾燥させてください。
※マグの相方（のりなし）⇒不可（使用は避けてください）。
※マグの相方（のりつき）⇒そのまま施工してください。

③ マグの相方施工

マグの相方 (のりなし)

ウォールボンドEV-30(ウォールボンド工業)使用の場合

- ①「マグの相方」を貼る際は、必ず下地ごとの適正な下地処理を済ませてから、
「ウォールボンドEV-30」原液を「下地側の貼る箇所(向こう糊施工)」にパテベラ・櫛バケ・櫛目ゴテなどを用いて塗りつける。櫛目が付いた物を用いると均一に塗布がしやすいです。
- ②ローラーで均一に塗りのばしてから「マグの相方」を貼ってください。目安の塗布量は200g/m²。
※「ウォールボンドEV-30」は向こう糊付け用(下地側に塗布する)接着剤なので、
材料への直接塗布のスペースを確保する必要は有りません。
- ③商品はロール状になっているので巻きぐせを取ってから貼ってください。
糊が材料の重さや巻きぐせに耐えられない場合は、周りを速乾ボンドや両面テープ、ピン等で仮止めしてください。
- ④上からスムサーや固めの撫で刷毛、ローラーなどを用いて
丁寧にエア抜きしながら貼り付けてください。ジョイントは突き付け施工としてください。
- ⑤「マグの相方」を貼る際壁紙と同一面積ではなく「マグの相方」を少し小さくして貼ってください。
- ⑥施工前の確認事項に記載している施工方法の異なる仕上げから⑧のパテ仕上げを行う場合、
下地との間の段差をパテで埋めるように塗布し、必要に応じて完全乾燥させて不陸調整をしてください。
適宜下塗りパテ・上塗りパテ、または上下兼用パテを使い分けて複数回処理することで
よりきれいな仕上がりになります。

ブラゾールSS(ヤヨイ化学工業)使用の場合

- ①「ブラゾールSS」が施工する下地に適合してるか確認してください。
- ②「マグの相方」を貼る際は、必ず下地ごとの適正な下地処理を済ませてから、
「ブラゾールSS」原液をローラーで均一に塗布し、5分ほどオープンタイムを取得した後貼ってください。
目安の塗布量は100g/m²。
※接着剤を塗布する際は均一になるように丁寧に塗布してください。均でない場合オープンタイムを取っている間に
薄い箇所は乾燥して本製品の裏面(接着側面)とは接着せず、その箇所が施工後のフクレの原因となります。
※「マグの相方」の接着面を#80程度のサンドペーパーで軽く目荒らしをすると接着強度が増します。
- ③商品はロール状になっているので巻きぐせを取ってから貼ってください。
糊が材料の重さや巻きぐせに耐えられない場合は、周りを速乾ボンドや両面テープ、ピン等で仮止めしてください。
- ④上からスムサーや固めの撫で刷毛、ローラーなどを用いて
丁寧にエア抜きしながら貼り付けてください。ジョイントは突き付け施工としてください。
- ⑤「マグの相方」を貼る際壁紙と同一面積ではなく「マグの相方」を少し小さくして貼ってください。
- ⑥施工前の確認事項に記載している施工方法の異なる仕上げから⑧のパテ仕上げを行う場合、
下地との間の段差をパテで埋めるように塗布し、必要に応じて完全乾燥させて不陸調整をしてください。
適宜下塗りパテ・上塗りパテ、または上下兼用パテを使い分けて複数回処理することで
よりきれいな仕上がりになります。

マグの相方 (のり付き)

- ①「マグの相方」を貼る際は、必ず下地ごとの適正な下地処理を済ませてください。
- ②商品はロール状になっているので巻きぐせを取ってから貼ってください。
- ③上からスムサーを使い丁寧にエア抜きしながら貼り付けてください。
接着剤がなじむようにハンドローラーで圧着してください。ジョイントは突き付け施工としてください。
- ④「マグの相方」を貼る際壁紙と同一面積ではなく「マグの相方」を少し小さくして貼ってください。
- ⑤施工前の確認事項に記載している施工方法の異なる仕上げから⑧のパテ仕上げを行う場合、
下地との間の段差をパテで埋めるように塗布し、必要に応じて完全乾燥させて不陸調整をしてください。
適宜下塗りパテ・上塗りパテ、または上下兼用パテを使い分けて複数回処理することで
よりきれいな仕上がりになります。

④ 壁紙施工

事前確認

- ① 紙と下地が接着する面については使用される接着剤に応じて、下地ごとの適宜な処理を行ってください。
- ② 壁紙が薄くて白い物で、マグの相方が黒く透けないか確認してください。
(使用を避けられない場合には施主様や依頼主様には色うつりの可能性がある事を事前に確認してください)
- ③ フィルム・ラミネートタイプの通気性の少ない壁紙は避けてください。
(使用を避けられない場合には施主様や依頼主様には目スキ・ハガレ・フクレの可能性のある事を事前に確認してください)

ルーアマイルド(ヤヨイ化学工業)使用の場合

- ① 「マグの相方」に捨て糊をします。
「ブラゾールSS」原液を刷毛、ローラーにて均一に塗布し、十分に乾燥させてください。(塗布量：100g/m²)
- ② 通常の壁紙を施工する要領で「ルーアマイルド」を7割希釈(糊10に対して水7)にて糊付けしてください(塗布量：135g/m²)
- ③ 養生袋やクロスボックスを用いてオープンタイムを取ってください。
※オープンタイムの長さは壁紙によって適宜調節をしてください。
- ④ 壁紙ジョイント部は下地を切らないように突き付け施工ないしPP下敷きテープを使用してください。
目スキ防止の為ジョイント補強テープ「和紙テープ」等を挿入してください。
- ⑤ 撫で刷毛で丁寧に空気を抜きながら撫でつけ壁紙を貼り付けてください。
※壁紙貼り付け前に「マグの相方」表面を#80程度のサンドペーパーで軽く目荒らしすると接着効果がまします。
※コーナー部分には「ジョイントコークA」(ヤヨイ化学工業)の使用をおすすめします。

ウォールボンド100(ウォールボンド工業)使用の場合

- ① 「マグの相方」の表面をサンドペーパーで必ず軽く目荒らしをし、それによって出た削り粉をしっかりと拭き取ってください。
またはマグの相方表面に「パラダイン390クリーン」原液を刷毛かローラーにて均一に塗布し、十分に乾燥させてください。
- ② 通常の壁紙を施工する要領で「ウォールボンド100」を原液にて糊付けしてください(塗布量：120~130g/m²)
※マグの相方に吸水・通気がほとんどないので、塗布量が多すぎると糊が乾かずフクレがやすいです。
さらにそれが貼ってある下地自体もシーラーかプライマー処理してあるので、塗布量は基本的に絞り気味でよいです。
- ③ 養生袋やクロスボックスを用いてオープンタイムを取ってください。
※オープンタイムの長さは壁紙によって適宜調節をしてください。
- ④ 壁紙ジョイント部は下地を切らないように突き付け施工ないしPP下敷きテープを使用してください。
目スキ防止の為ジョイント補強テープ「和紙テープ」等を挿入してください。
- ⑤ 撫で刷毛で丁寧に空気を抜きながら撫でつけ壁紙を貼り付けてください。
※コーナー部分には「ジョイントコークA」(ヤヨイ化学工業)の使用をおすすめします。

ウォールボンド200(ウォールボンド工業)使用の場合

- ① 樹脂の配合量の多いウォールボンド200を使用すれば目荒らしや390クリーン処理をしなくても施工可能です。
※目荒らしをすればなお接着効果が期待できます。
- ② 通常の壁紙を施工する要領で「ウォールボンド200」を原液にて糊付けしてください(塗布量：120~130g/m²)
※マグの相方に吸水・通気がほとんどないので、塗布量が多すぎると糊が乾かずフクレがやすいです。
さらにそれが貼ってある下地自体もシーラーかプライマー処理してあるので、塗布量は基本的に絞り気味でよいです。
- ③ 養生袋やクロスボックスを用いてオープンタイムを取ってください。
※オープンタイムの長さは壁紙によって適宜調節をしてください。
- ④ 壁紙ジョイント部は下地を切らないように突き付け施工ないしPP下敷きテープを使用してください。
目スキ防止の為ジョイント補強テープ「和紙テープ」等を挿入してください。
- ⑤ 撫で刷毛で丁寧に空気を抜きながら撫でつけ壁紙を貼り付けてください。
※コーナー部分には「ジョイントコークA」(ヤヨイ化学工業)の使用をおすすめします。

⑤ 施工後の注意事項

- ① はみ出したパテや接着剤は直ちに清水で拭き取ってください。
- ② 壁紙によってはフクレが起りやすいので、その場合はエア抜きを丁寧に行ってください。
- ③ 壁紙施工後は一週間程度は急激な空調の使用は避けて、自然換気に努めてください。



 **株式会社 石山**

詳しくは <http://www.ishiyamanet.jp>

メールでのお問い合わせは info@ishiyamanet.jp

☎ **03-3874-8441** ☎ **03-3875-4845**

〒110-0012 東京都台東区竜泉2-13-9

受付時間：8時30分～17時30分（土・日・祝日は除きます）

ご用命は